

# 地質ニュース

昭和56年2月

第318号

1981

解 説	D. J. VARNES (1974) による 地質図の理論—土地地質のための解釈と利用	石井武政 黒田和男	6
	断層とマイグレーション	中条純輔 宮崎光旗	26
	会話型データ処理 その3 REDIM文を使った配列操作	茂木昭夫 椋井操	34
海外事情	その後の西シベリア油田・ガス田群③	資 料 室	38
	経済地理メモ—社会主義国編 ② 東 ド イ ツ	資 料 室	48
	齊藤正次元所長の勲三等叙勲を祝う	地 質 部	51
	中華人民共和国の鉱山を訪ねて(1)	小村幸二郎	52
	日本地熱資源賦存地域分布図	角清愛 高島勲	64

口 絵	断層を検出する 阿武隈沖の反射記録によって	中条純輔	
-----	--------------------------	------	--

## 編 集 地質調査所

### 表紙の写真

自然水銀 長崎県佐世保市大瀧町産 (地質調査所標本 M12322)

自然水銀 (native mercury, Hg) は常温で液状を示す唯一の金属である。比重は13.596 普通少量の金 銀を含んでいる。写真の自然水銀は粒径最大1mmである。

この自然水銀は、第三紀中新世佐世保層群相ノ浦層の砂岩・頁岩互層中に存在する。この砂岩中には垂直の節理が発達しており、その節理に沿って脈状の水銀鉱床が生成している。水銀鉱物として辰砂(cinnabar, HgS, 深紅~褐赤色) 黒辰砂 (メタ辰砂 metacinnaber, HgS, 灰黒色 辰砂と同質異晶) 自然水銀 及び 角水銀鉱 (calomel, hornquicksilver HgCl 無色~白色針状) を産するが、他の鉱石鉱物は産しない。

1843~44 (天保14~弘化元年) 及び1869~1970 (明治2~3年) に自然水銀を少量採取した。

なお 黄茶色にみえるところは褐鉄鉱である。

発行 株式会社 実業公報社